

カリキュラム・
マネジメントの
手引き

社会に開かれた教育課程の実現に向けて

～学校・地域連携カリキュラムを生かすには～



令和3年3月 山口県教育委員会

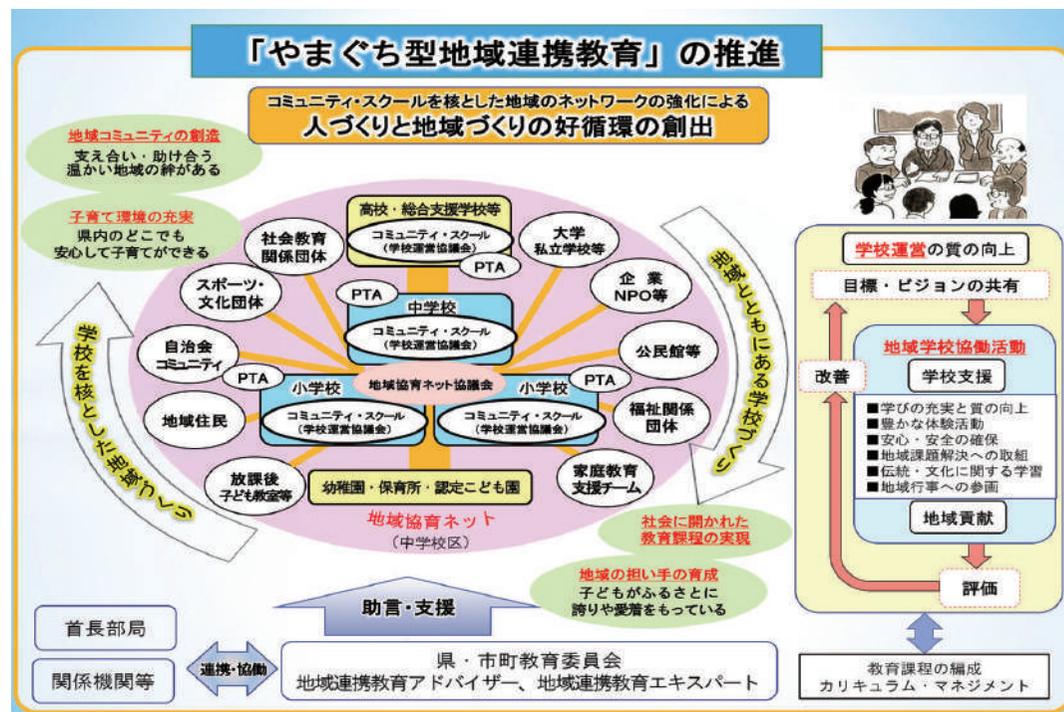
カリキュラム・マネジメントとは

カリキュラム・マネジメントとは、次の三つの側面から教育課程を整理し、組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質を向上させることです。カリキュラム・マネジメントを充実させることにより、教育課程を子どもたちにとって意義あるものにしていくことが大切です。

- ① 児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を 教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- ② 教育課程の実施状況を 評価してその改善を図っていくこと
- ③ 教育課程の実施に必要な 人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

本県では、令和2年4月に県内全ての公立小・中・高等学校・特別支援学校がコミュニティ・スクールとなりました。コミュニティ・スクールの仕組みを活用することで、地域の実態を適切に把握することや、人的または物的な体制を確保することができる等、教育活動の質を向上させることができます。

コミュニティ・スクールが核となり、地域協育ネットワークの仕組みを生かして、各中学校区で地域のネットワークを形成し、社会総がかりで子どもたちの学びを支援する「やまぐち型地域連携教育」の取組を充実させることにより、教育活動や学校運営の質の向上を図ることができます。



コミュニティ・スクールの仕組みを生かした組織マネジメント

小（中）学校学習指導要領 解説 総則編では、カリキュラム・マネジメントの充実について次のように示されています。

組織的かつ計画的に取り組を進めるためには、教育課程の編成を含めたカリキュラム・マネジメントに関わる取組を、**学校の組織全体の中に明確に位置付け**、具体的な組織や日程を決定していくことが重要となる。校内の組織及び各種会議の役割分担や相互関係を明確に決め、職務分担に応じて既存の**組織を整備、補強したり、既存の組織を精選して新たな組織を設けたりすること**、また、分担作業やその調整を含めて、各作業ごとの具体的な日程を決めて取り組んでいくことが必要である。

効果的にカリキュラム・マネジメントを行い、社会に開かれた教育課程を実現するためには、**コミュニティ・スクールの仕組みを生かした組織マネジメント**を行うことが大切です。

組織マネジメントのポイントは、学校教育目標を達成するために、既存の校務分掌を見直し、教職員が地域と連携・協働する仕組みをつくることです。例えば、これまでの校務分掌組織を右下のような3層構造にすることが考えられます。

組織マネジメントのよさ

よさ1

教職員が学校運営に関わっているという自覚をもつことができます。

よさ2

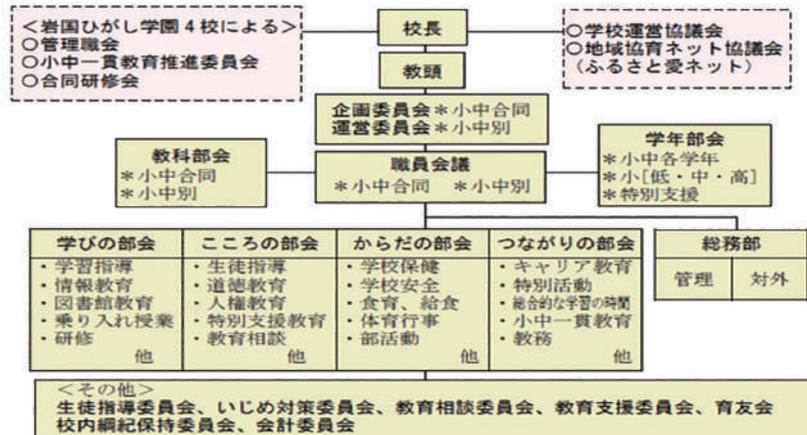
学校教育目標等の共有ができます。

よさ3

校務分掌のチームとしての連動性が高まり、教職員が地域と連携・協働するようになります。

学校運営組織

〈岩国市立東小学校の例〉



1層 学校運営協議会

保護者、地域の皆さん、教育委員会、校長など
 部会報告・熟議

◎学校運営協議会

- 校長が作成する基本方針を承認する。
- 校長や教育委員会に意見を述べる。
- 教員の任用に関する意見を述べる。

2層 企画推進委員会

校内委員代表 部会報告・熟議 校外委員代表

◎企画推進委員会

- 各プロジェクト部会の意見について熟議する。
- 各プロジェクト部会の意見をまとめ、学校運営協議会に諮る情報を整理する。

3層 プロジェクト部会

校内委員 心の教育部会 学力向上部会 体力向上部会 校外委員

◎プロジェクト部会

- 校内委員として、いずれかの部会に全教職員を配属する。
- 各部会で学校課題解決のための目標を設定する。
- 達成方法について協議し、実践に向けた計画を練る。

「やまぐちコミュニティ・スクール」(平成27年3月 山口県教育委員会)

学校・地域連携カリキュラムとは

学習指導要領では、教育課程の編成に関して次のように示されています。

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、第5章総合的な学習の時間の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする。

この趣旨を踏まえ、本県では「学校・地域連携カリキュラム」を「**社会に開かれた教育課程の視点をもとに、学校と地域が連携・協働する教育活動を体系的に示したカリキュラム**」と定義し、より一層の充実をめざしています。

「グランドデザイン」（下図）と「9年間の単元配列表」を作成し、効果的に活用することで、各学校の**教育活動の質**を高めること（カリキュラム・マネジメント）が重要です。

学校・地域連携カリキュラム

学校の基本方針を示す グランドデザイン

目的 家庭や地域との理念の共有

盛り込まれる内容

- 中学校区や各学校の教育目標
- 育成をめざす資質・能力
- 重点取組事項
- 育てたい子どもの姿
- 学校・地域の課題

ビジョン



総合的な学習の時間を 核とした9年間の単元配列表

設計図

目的 学校教育目標と総合的な学習の時間、各教科等との関連の明確化

盛り込まれる内容

- 児童生徒や学校、地域の実態等に応じた探究課題の設定
- 総合的な学習の時間と各教科等との関連

【上宇部中学校区の子どもたちの育ちを地域ぐるみで見守ろう～上宇部中学校区小中一貫教育グランドデザイン～】

夢たまごネット

ココがポイント! 1

中学校区等の教育目標を示しましょう!

《めざす子どもの姿》

○宇部市の教育理念○

夢・絆・志 ふるさとを愛し、未来を拓く人づくり



☆上宇部中学校区 -上宇部小学校・琴芝小学校・上宇部中学校- めざす子どもの姿☆
地域に愛着をもち、地域のために行動する子ども～明るく 元気に さわやかに～



ココがポイント! 2

家庭、地域、そして子ども等、誰が見てもわかる、わかりやすい言葉で示しましょう。

☆小中一貫学校教育目標☆

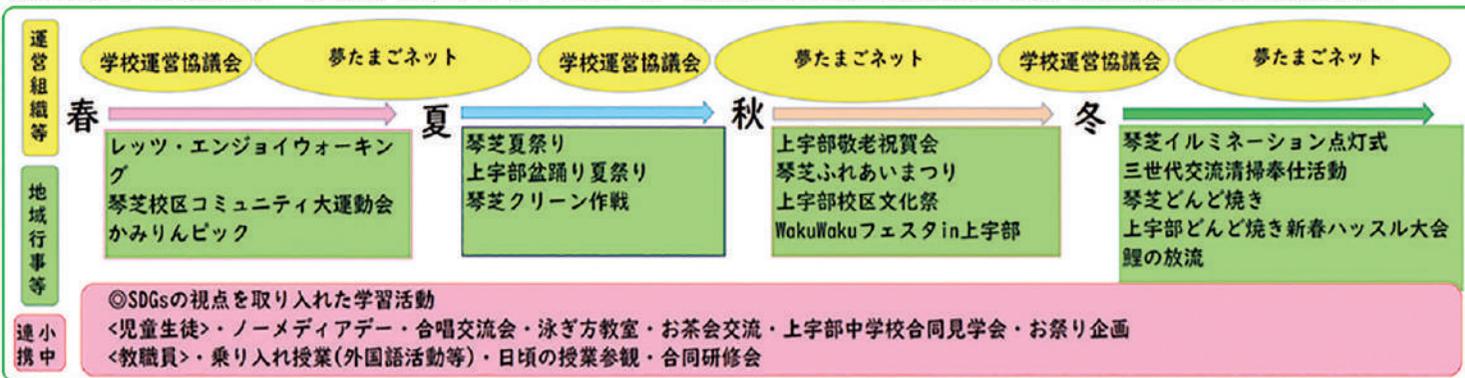
ふるさとを愛し、ふるさとの未来を創る子どもの育成

《なにごでできるようになるか》

学年	小学校1年	2年	3年	4年	5年	6年	中学校1年	2年	3年	めざす将来の姿	
家庭学習の取組 (学習支援委員会)	宿題をする			自分で工夫して、復習をする			自分にあった勉強の仕方を見つけて、続ける			学び続ける 4	
	宿題の確認をする			子どもの自分なりの学習を見守る時には、一緒に考える!			将来に向けて語り合う				
地域行事への参加 (地域連携委員会)	地域行事に参加する			地域行事を手伝う			地域行事を企画する			地域をつくる 11	
	子どもと一緒に地域行事に参加する			子どもと一緒に地域行事を手伝う			子どもに地域行事をらせてみる				
清掃活動への取組 (環境美化委員会)	掃除の仕方を知る			友達と協力して掃除をする			率先して掃除をする			みんなが住みよい環境をつくる 12	
	子どもと一緒に掃除をする【家庭】			子どもと地域の清掃活動を手伝う			子どもの清掃活動を見守る				
あいさつの取組 (健康安全委員会)	元気よくあいさつをする		自分から進んであいさつする			時と場に応じたあいさつをする					人とつながる 17
	誰に対してもあいさつをする 家庭の中でも「ありがとう」「おはよう」「おかえり」「おやすみ」を! + あいさつの源「朝ごはん!」										

《どのように進めるか～夢たまごネットを中心に～》

※夢たまごネット:上宇部中学校区(上宇部小、琴芝小、上宇部中)の地域協育ネット協議会のことです。



ココがポイント! 4

学校運営協議会等で育てたい子ども像等について熟議して共有しましょう。



▲熟議の様子

ココがポイント! 3

中学校区等の重点取組事項が何かわかるようにしましょう。

社会に開かれた教育課程を実現するためのポイント

「学校・地域連携カリキュラム」は、コミュニティ・スクールの仕組みを生かして、学校や地域の実態を基に随時見直しを図ることが必要です。

地域課題等を踏まえた探究課題の設定 (総合的な学習の時間)

総合的な学習の時間の目標については、学校の教育目標との関連を図り、児童生徒や学校、地域の実態に応じてふさわしい探究課題を設定することができるという総合的な学習の時間の特質が、各学校の教育目標の実現に生かされるようにしていくことが大切です。

総合的な学習の時間については、内容の設定に際し、「目標を実現するにふさわしい探究課題」、「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の2つを定める必要があります。

「目標を実現するにふさわしい探究課題」

例えば「身近な自然環境とそこで起きている環境問題」、「地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々」、「実社会で働く人々の姿と自己の将来」等の児童生徒が探究的な学習に取り組む課題です。

「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」

各学校において定める目標に記された資質・能力を各探究課題に即して具体的に示したものです。

岩国ひがし学園小中一貫教育目標

「ふるさとを愛し、
ふるさとの人々からも
愛される子どもたちの育成」

めざす子ども像

自分をつくる

自らの成長に向けて
たくましく学び続ける子

仲間をつくる

より良い集団
づくりに積極的に
かかわる子

未来をつくる

夢や希望の
実現に向けて自ら
歩み続ける子

地域の強み・課題の分析・把握

ココがポイント!

地域課題等を踏まえた探究課題の設定

3年	<ul style="list-style-type: none"> 地域の公共施設の役割と働く人々 住みやすい町づくりの工夫 町や道具の変化と、これからの自分
4年	<ul style="list-style-type: none"> 防災の大切さと災害に備えたまちづくり 自分の成長とそれを支えてくれた人々
5年	<ul style="list-style-type: none"> 地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観
6年	<ul style="list-style-type: none"> 町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織 実社会で働く人々の姿と自己の将来
7年	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然環境と環境問題の現状 地域の産業の特徴と、働く人々
8年	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史や生活の発展 地域で働く人々の姿と自己の将来
9年	<ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統や文化とその継承



4年「防災の大切さと災害に備えたまちづくり」
総合的な学習の時間で社会科の学びを発揮する



5年「異文化に触れるイワクニエレメンタリースクールとの交流」
総合的な学習の時間で外国語科・外国語活動の学びを発揮する

学校評価アンケートを目標の実現につなげる

小（中）学校学習指導要領 解説 総則編では、教育課程について、次のように示されています。

教育課程は、日々の指導の中でその存在があまりにも当然のこととなっており、その意義が改めて振り返られる機会は多くない。

慌ただしい日々の学校生活では、教育課程を「こなす」ことに精一杯で、評価し改善することがおろそかになりがちです。コミュニティ・スクールの仕組みを生かして、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくことが大切です。そのために次の視点で学校評価アンケートを見直し、学校や地域の課題を把握し、目標の実現につなげることが必要です。

ポイント1 グランドデザインに基づいて学校評価アンケートを実施する。

ポイント2 小・中共通の視点に立った評価項目をアンケートに反映する。

ポイント3 学校運営協議会で出た意見を、学校評価アンケートの評価項目に反映する等、学校評価アンケートそのものを見直す。

【上宇部中学校区の子どもたちの育ちを地域ぐるみで見守ろう～上宇部中学校区小中一貫教育グランドデザイン～】

《めざす子どもの姿》

○宇部市の教育理念○
夢・絆・志 ふるさとを愛し、未来を拓く人づくり

夢たまごネット

☆上宇部中学校区 - 上宇部小学校・琴芝小学校・上宇部中学校 - めざす子どもの姿☆
地域に愛着をもち、地域のために行動する子ども～明るく 元気に さわやかに～

☆小中一貫学校教育目標☆

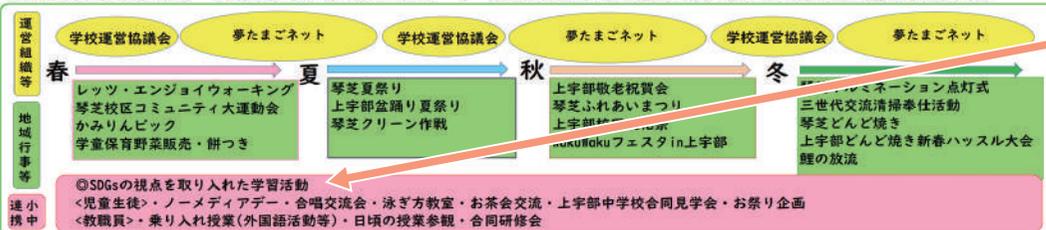
ふるさとを愛し、ふるさとの未来を創る子どもの育成

《なにができるようになるか》

学年	小学校1年	2年	3年	4年	5年	6年	中学校1年	2年	3年	4年	めざす将来の姿				
学習指導要領の取組	宿題をする	宿題の確認をする	地域行事に参加する	子どもと一緒に地域行事に参加する	掃除の仕方を知る	子どもと一緒に掃除をする【家庭】	元気よくあいさつをする	自分から進んであいさつをする	誰に対してもあいさつをする	家庭の中でも「ありがとう」「おはよう」「おかえり」「おやすみ」を！ + あいさつの源「朝ごはん！」	自分で工夫して、復習をする	子どもの自分なりの学習を見守る	時には、一緒に考える！	自分にあつた勉強の仕方を見つけて、続ける	将来に向けて語り合う
地域行事等の取組															
清掃活動への取組															
あいさつ活動への取組															

《どのように進めるか～夢たまごネットを中心に～》

※夢たまごネット：上宇部中学校区(上宇部小、琴芝小、上宇部中)の地域協育ネットワーク協議会のことです。



学校評価アンケート（地域）

選択肢の回答は、あてはまる場所のマークを、各項目1つずつぬりつぶして回答して下さい。

○：空白マーク ●：正しいぬりつぶし ∅：不十分なぬりつぶし

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したりしないように注意して下さい。

	1	2	3	4	5	
1	学校は、生徒の興味・関心を高める授業を展開している。	①	②	③	④	⑤
2	学校は、授業で生徒が自分で考えたり説明したりすることを奨励している。	①	②	③	④	⑤
3	学校は、生徒が宿題や家庭学習を最後までやり遂げるような取組をしている。	①	②	③	④	⑤
4	学校は、生徒が時と場に応じた挨拶をする取組を行っている。	①	②	③	④	⑤
5	学校は、生徒が決まりを守って生活するような取組を行っている。	①	②	③	④	⑤
6	メディア（テレビやゲーム、スマホ等）の適切な利用について、学校と家庭が連携した取組をしている。	①	②	③	④	⑤
7	学校は、生徒が無言で一息懸命清掃する取組を行っている。	①	②	③	④	⑤
8	学校は、生徒が進んで掃除をするように指導している。	①	②	③	④	⑤
9	学校は、子どもたちが地域の行事に参加しやすいように働きかけている。	①	②	③	④	⑤
10	学校の活動に協力する機会があれば、協力したい。	①	②	③	④	⑤

学校・地域連携カリキュラムの作成と運用・評価・改善

小（中）学校学習指導要領 解説 総則編では、教育課程の編成について、次のように示されています。

「社会に開かれた教育課程」の理念に基づき、目指すべき教育の在り方を家庭や地域と共有し、その連携及び協働のもとに教育活動を充実させていくためには、**各学校の教育目標を含めた教育課程の編成についての基本的な方針を、家庭や地域とも共有していくことが重要**である。

学校・地域連携カリキュラムは、学校だけでつくるのではなく、家庭や地域とともにつくっていくプロセスにこそ大きな価値があるので、何度も見直す仕組みをつくるのが大切です。その際、コミュニティ・スクールの仕組みを活用することが有効であることはいうまでもありません。

ポイント1

学校運営協議会で**熟議**を行い、目標（めざす児童生徒像）や課題を共有しましょう。その際、**児童・生徒が参加する熟議**は、とても効果的です。

ポイント2

グランドデザインに示された育成したい資質・能力を日々の授業において、明確にして育んでいきましょう。また、そのための教職員研修を確実にいきましょう。

ポイント3

学校・地域連携カリキュラムを全教職員や来校した保護者・地域の方々にも見えるところに掲示し、スケジュールの進行・管理をしましょう。

ポイント4

学校評価アンケートを使って児童生徒・保護者・教職員の声を聞き、改善の視点を得ましょう。



▲育てたい子ども像を共有する熟議

学校・地域連携カリキュラムの作成と運用・評価・改善のフロー（例）

ビジョンを共有し、
評価・改善するサイクルを
つくりましょう。





岩国市立 東小学校(岩国ひがし学園)の取組



キャリア教育でつながる子どもたちの学び

本学園では、施設一体型、分離型小中一貫教育校「岩国ひがし学園」としてスタートした4校（小瀬小、装港小、東小、東中）の教職員が、めざす子ども像を共有しています。

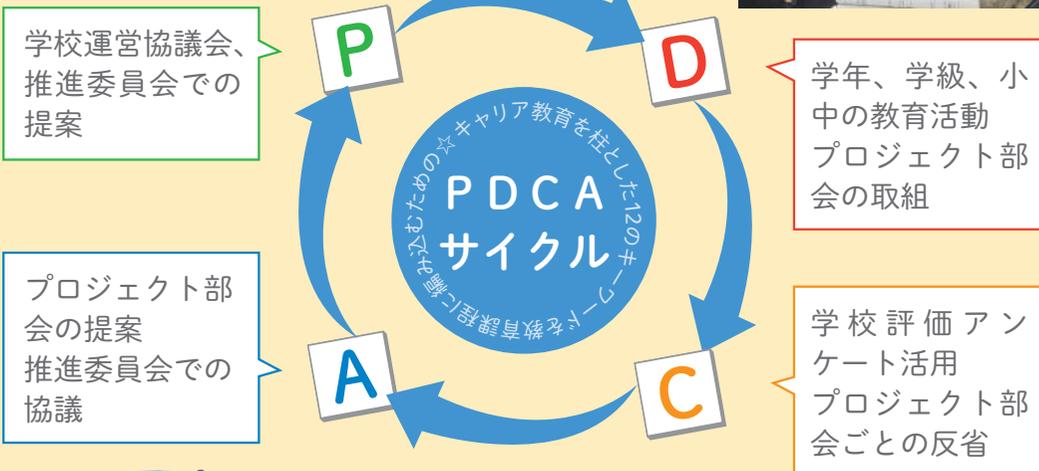
小中一貫教育の推進を図るための組織改編を行いました。4つのプロジェクト部会とそれらを統括する推進委員会を設置し、組織ごとのPDCAサイクルを確立し、改善を進めています。

また、育成したい資質・能力をキャリア教育を柱とした12のキーワードに示し、各教科等や各教育活動において、9年間を見通して育成するためのカリキュラムを作成しています。

ココがポイント！

学校横断的な組織編成

PDCA サイクルの確立



ココがポイント！

4校の教職員がプロジェクト部会に所属し、チームで地域課題を解決します

ココがポイント!

地域の強みを生かしたキャリア教育を柱とした9年間を見通したカリキュラムの編成

めざす子ども像



▲熟議した内容を発表

自分をつくる
自らの成長に向けて
たくましく
学び続ける子

仲間をつくる
より良い集団
づくりに積極的に
かかわる子

未来をつくる
夢や希望の
実現に向けて自ら
歩み続ける子



▲「ちょこっとボランティア」によるミンシボランティア

例) 地域に住む外国人と大切にしている文化や価値観



▲エレメンタリースクールとの交流

他者理解
自己理解
エレメンタリー
スクールとの交流

主体的選択
コミュニケーション
平和記念公園での
外国人へのインタビュー

課題発見
行動・改善
世界平和の観点から
自分にできること



▲外国語を実際に使ってみる総合的な学習の時間

キャリア教育

育成したい資質・能力～キャリア教育を柱とした12のキーワードで教育課程を編み込む～

- 他者理解
- コミュニケーション
- 協力・協働

- 自己理解
- 主体的選択
- 自律・研鑽

- 課題発見
- 計画立案
- 実行・評価

- 学びや仕事の意義
- 将来設計
- 行動・改善



▲えびす祭りの華金管バンド×カラーガード



▲土曜夜市での販売のお手伝い



▲清掃ボランティアで地域貢献



▲地域の方との防災マップづくり

山口市立平川中学校の取組



インプット×アウトプット×モチベーションで育む言語能力

本校は、「志を支え、才を育む 愛があふれる学校」をめざす学校の姿として、学校、家庭、地域が一体となり、教育活動を推進しています。社会に開かれた教育課程を実現し、社会の変化に柔軟に対応できる子どもたちを育成するために、本校では「話す力・聞く力・説明する力」「SNS等のトラブル」等の学校の特徴や課題を洗い出しました。そこで、学習の基盤となる資質・能力である言語能力に着目し、①インプット、②アウトプット、③モチベーションという3つの視点から、本校の実態にあったカリキュラム・マネジメントを実施しました。

ココがポイント!

グランドデザインの中に育成したい言語能力を位置付けた

学園都市ひらかわ グランドデザイン

(平川小・平川中連携教育構想)

平川幼稚園・愛児園平川保育所
平川小学校・平川中学校
西京高校・中村学園専攻科
山口大学・山大附属総合支援学校

平川コミュニティ推進協議会

子どもたちのなりたい姿いろいろ
いろいろなと話ししたい。きちんと正しく伝えたい。
理解が上がりやすいかな。あ話で盛り上げたい。
みんなと仲良くなりたい。友達が増えるといいかな。
いろいろなことに挑戦したい。自信を持ちたい。
勉強が分かりたい。学校生活を充実させたい。
社会性を身に付けたい。 などなど

学校が核となり
全ての人が生き生きと学ばまち

平川小・中のめざすこどもの姿

夢・目標をもち、瞳かがやく平川っ子

☆何ができるようにするか

		小学校1年	2年	3年	4年	5年	6年	中学校1年	2年	3年
良質なインプット 家庭学習	学校	「わかる」「できる」を味わい、学習意欲を高める。				目的意識をもち自ら進んで学習に取り組む。		夢の実現に向けて必要な学習を計画的・継続的に取り組む。		
	家庭地域	地域や家族が学びの環境を整える。				家族が子どもの学びに寄り添い、支える。		子どもの学びが発信できる機会を設ける。		
アウトプットの実践 あいさつ	学校	あいさつの大切さを知り、習慣にする。				自分から進んで、誰にでもあいさつをする。		時と場に応じたあいさつをする。		
	家庭地域	地域と家族、みんなで明るいあいさつをする。				大人から積極的にあいさつをして子どもをリードする。		家族が親気強く子どもに声をかけ続け、あいさつの定義を図る。		
正しいモチベーション 情報モラル・SNS	学校	基本操作やルール・マナーを学ぶ。				安全かつ有効に活用する。		使用方法、使用制限について自ら考え、行動する。		
	家庭地域	家族が正しい理解に努め、ファミリールールをつくる。				家族がリスクを敷いて、子どもと共に状況やルールを確認する。		家族が状況を随時確認しながら子どもが自立した運用ができるよう導く。		
		保護者向け情報モラル研修会を地域が企画する。								

ココがポイント!



平川ネットのしくみを生かした取組

- 知的活動の活性化! 地域連携授業
- 地域の支えを育て! 地域による学習会
- 地域の方との交流! 地域行事で学ぶ (平川まつり)
- ① 地域学習
- ② 地域参加型道徳
- ③ ひらこや
- ④ おおすぎ塾
- ⑤ 販売実習
- ⑥ 防災熱議

ココがポイント!

学校、家庭、地域が連携・協働して児童生徒の言語能力を育む!



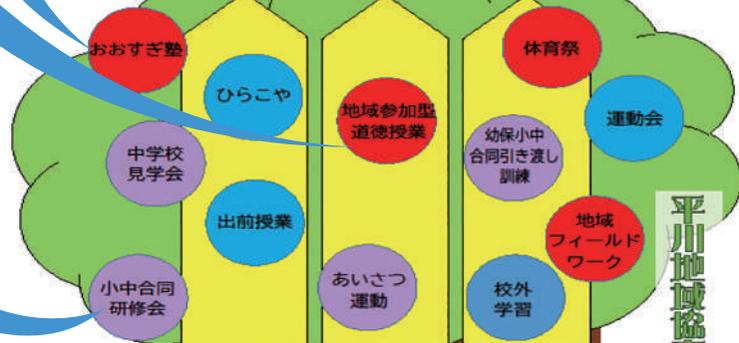
▲地域の方と意見を交わし、思考を深める「地域参加型道徳」

大学生に勉強を習いながら、進路の情報を知ることができる放課後学習会「おおすぎ塾」▶



【平川小・中カリマネのイメージ】

夢・目標をもち、瞳かがやく平川っ子



学校運営協議会委員	交流センター所長 幼稚園園長 PTA関係	会長・副会長 地域団体関係 保育所所長 民生委員	地域団体関係 西京高校校長 放課後学級職員 地域学級協働推進員
PTA	文化部 学年部	生活部	保健体育部 保健部
小中連携部会	カリキュラム 学力・研修 学校図書館 英語	生徒指導 教育相談 特別活動 環境・緑化	体育 保健・給食 特別支援
校務分掌	教務部 研修部	生徒指導部	保健安全部指導部 保健体育食育推進部
	知	徳	体(安全)

カリマネ推進委員会
(小中連携推進会議) (担当者会議)

平川コミュニティ推進協議会 連合自治会
ひらこや JA 地元企業 教育委員会
PTA 平川サポーターズ 情報部

学園都市ひらかわ

平川幼稚園 平川保育所 平川小学校
平川中学校 西京高校 中科学習専攻科
山口大学 山形県総合支援学校



▲有志生徒が、全校生徒に学園都市ひらかわランドデザインについて説明して、ビジョンを共有した



▲地域協育ネットで自身の経験を交えての「生徒による学校説明」



▲地域の方と生徒が漢字検定合格をめざして学習した「漢検クラブ」

ココがポイント!

熟議をすることで、ビジョン（学校教育目標等）を共有できます。その際、生徒が、学校の取組等を発表したり、地域の方とともに熟議に参加したりすることはとても大きな効果があります。

ココがポイント!

言語能力を育成する活動になっているかという視点からこれまでの取組を見直していくことが大切です。

習熟をめざす
読解・聴力
言語能力

宇部市立 上宇部中学校の取組



コミュニティ・スクール×SDGsで 子どもが躍動する学校

本校はコミュニティ・スクールの仕組みを生かした学校改革に取り組んでおり、生徒の姿や学校の変化から「奇跡の学校」と称賛されることもあります。

本校では、めざす子どもの姿や身に付けさせたい資質・能力とSDGsの視点をランドデザインにまとめ、学校・家庭・地域がビジョンを共有し、それぞれの立場でできることを考え、実践し、検証するサイクルを構築しています。その際、**カリキュラム・マネジメントの中心にいるのは子どもたち自身**です。学校運営協議会の熟議を生徒会役員が主導して、地域づくりの具体策を提案し、地域の方々と意見を交わすなど、生徒がランドデザインに基づいた思いや意見を語る機会を設定しています。



生徒会役員が各プロジェクト部会で活動

宇部市立上宇部中学校 地域連携教育 校内組織図



※
総括
教頭
地域連携担当教員



すべての部会に生徒会役員、地域の方、全教職員が入っています。

※「ぜんりょくん」：令和2年に誕生したマスコットキャラクター
生徒会スローガン「善力・前力・全力」にちなんで命名されました。

ココがポイント!

生徒の学校運営協議会への参画により学校・家庭・地域で回す

PDCA サイクル

plan



生徒と学校評価アンケートの結果を共有し、グランドデザインに基づいた今できる地域貢献のアイデアを考える

生徒と地域の方々が今できる地域貢献を協議する学校運営協議会



plan



do



大人が実現に向けた知恵を出す「夢たまごネット協議会」

action

年度末の学校運営協議会で協議



グランドデザインに示す「何ができるようになるか」

- 4 自分に合った勉強の仕方を見つけて続けている
- 11 地域のために何ができるかを考える
- 12 率先して掃除をする
- 17 時と場に応じたあいさつをする

学校チャレンジ目標

あ・そ・べ　ぶ・ち

あいさつ　掃除　勉強　部活動　地域貢献

do



小中合同あいさつ運動

生徒会役員の引き継ぎにあわせて課題を整理し、次年度の取組に向けた修正を行う

check

ココがポイント!

生徒が協議に参画しています!



学校運営協議会で活動報告



生徒と地域が一体となって取り組む清掃活動

学校運営協議会で成果と課題を協議

Q & A



Q¹

社会に開かれた教育課程の実現に向けて、学校・地域連携カリキュラムをどのように周知すればよいでしょうか。

学校・地域連携カリキュラムを、家庭だけでなく、地域の施設等にも年度当初に配布するとよいでしょう。また、右図のように、関連行事などが分かるような子どもたちが作成したカレンダーを配布している学校もあります。



Q²

本校でも総合的な学習の時間を見直したいと考えています。どのようなことから始めればよいですか。

育成したい資質・能力に照らして、今までの実践を再構成するとよいでしょう。また、SWOT分析等により地域の強みや弱みを把握し、ワクワク感のある地域素材を取り上げることも大切です。自治体によっては、初任者研修等で地域素材を理解するためのプログラムを用意しているところもあります。



Q³

児童生徒が熟議に参加することのよさは何ですか。

児童生徒が熟議に参加することで、生徒の声や地域の声を拾い上げ、学校の教育活動に生かすことができます。熟議の話題を児童会活動・生徒会活動と関連のあるものにする等、既存の児童会・生徒会活動と連動させ、再構成していくことが大切です。



Q⁴

学校・地域連携カリキュラムを児童生徒が意識する機会をどのように設ければよいでしょうか。

キャリアパスポートと関連付けてはどうでしょうか。キャリア・パスポートのファイルに学校・地域連携カリキュラムと一緒に綴じて、学校の重点的な取組がわかるようにし、そのことについて児童生徒自身がどのような取組をしてきたのか学びの履歴を振り返られるようにすることが考えられます。また、コミュニティ・スクールの意義や取組を説明する児童生徒向けのプレゼンの内容に盛り込むのもよいでしょう。



県教育委員会では、令和元年度から2年間、社会に開かれた教育課程推進リーダーを岩国市立東小学校、山口市立平川中学校、宇部市立上宇部中学校に配置しました。その3名のリーダーは、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、各学校を支援することを主な役割としました。

この度、この3校の取組の成果をカリキュラム・マネジメントの手引きとして示すことにしました。各学校において、カリキュラム・マネジメント推進の参考としていただきたいと思います。作成に当たっては、山口大学教職大学院教授の池田廣司先生、准教授の美作健悟先生、地域連携教育エキスパートの木本育夫先生にご助言いただきました。